

第1回実行委員会だより

実行委員会(5月11日(土)開催)の内容を以下にご連絡いたします

挨拶

《福山会長》

新しい年度の方だけで委員会を実施するのは今日が初めてということになります。今回初めて出席されてる方もいらっしゃると思いますし、当然、不安な方も多いはずですが。私も不安な気持ちで委員を始めたのをはっきり覚えています。それに日常生活が大変な方も多いかもかもしれません。一年先のご自身の生活が不透明ですとか、不安は尽きないですね。私も同じです。日常という個人の生活とその意識が集まっているのが、ある意味では“社会”と言えるかもしれません。そこで少しお話が広がるようですが、今日は第一回ということで、この地域社会に関するお話をしてみたいと思います。

突然の投げかけで大変恐縮ですが、今この社会は、大人がこれから先の未来に希望をもって、活力があって明るく前を向いて毎日暮らしていると言えますでしょうか。言い方を変えますと、私たち大人が地元地域でどんな表情をして過ごしているかということです。子供たちにどんな顔を見せて日常を過ごしていますでしょうか。私たちの大人の顔というか表情から連想される言葉があるとすれば、例えばどんなものが浮かびますでしょうか。

私が浮かんでくる言葉をあげるとしたら、それは“失望”です。人によって言葉は異なるはずですが、この国に棲む私たち大人が最も見慣れた情景の一つではないでしょうか。つまりその情景とは、“失望”した大人たちの表情です。その表情が集まった地域が見えてきます。

社会のどこかで何か大きなトラブルが起きたとして、それを直接、あるいは報道等で見聞きます。そしていつものように“再発防止”とか“周知徹底”を図るとか、そんな言葉を聴いても、私たちはまた同じような問題が起こるであろうことを、心のどこかで理解してしまっています。それでも社会に対して強い反発行動は起こしません。これも“失望”の一つの現れだと考えています。どうせ行動したところでうまくいかない、というつぶやきが聞こえてきそうです。私も油断していると、「どうせ・・・」という言葉が出るのを慌てて押さえることがたくさんあります。私の隠れた口癖です。私の表情も同じように地域の子供たちに映っているはずです。

しかし不思議なことに私たちは子供たちに対しては、“清く、正しく”“思いやりをもって”とか、“チャレンジ”が大切だと説いています。みんなで考えたいんですが、これは正しい行いでしょうか。私たちの行いは、テストで“○”がもらえる言動でしょうか。

間違っています。私たちは間違え続けてきました。間違っていた時間は、私の目算で恐縮ですが少なくとも30年間です。人によっては70年以上とおっしゃる方もいるような気がします。今この場は私の個人的な社会感覚だけをお伝えする場ではありません。もちろん保護者と学校と、そしてこの地域社会を取り巻く現状についてお伝えしているつもりです。

さきほど間違い続けた30年という目分量のお話をしました。これが仮に正しい認識だとして、恐ろしい想像ですが、それが40年、50年と、その“失望”をわれわれの子供たちの世代にまで引き継ぐことになるん

でしょうか。私たちの子供や孫の世代も、同じように毎日怖い顔をして「忙しい」とか「どうせ」とか呟いて、“失望”した顔をつないでいくと。令和が始まって少し時間が経ちましたが、それでも私たちはまだ“失望”を続けるのでしょうか。もはや“失望”が大好きなんじゃないかという感じもします。

もうウンザリです。

私たち大人が変わろうともしないで、怖い顔をして毎日暮らしている。変わるのはまず私たち大人であつたはず。他人を変える前に自分から変わって、子供の頃そんなようなことを学校の先生に言われました。

もちろん大人は嘘を言わないと生きていくことは出来ないわけです。複雑に利害関係が絡むビジネス業界では、本音と建て前は欠かせないですね。私も嘘つき人間の一人です。誰だって大なり小なりそうだと思います。

しかしながら、このPTAや学校と地域のことに話を戻しますと、基本的には金銭的な利害関係は少ないはず。だったら変えられないことはないような気がします。

私の趣味で、金融業界でいうところの“ファンダメンタルズ”というんでしょうか、いろんな資料の数字を見ていると、確かにこの国は絶望的ではあるんですけど。それでもたまに考えることがあるんです。私たちは何にも変えられないんでしょうか。

当然、いきなり世界そのものを変えることは出来ません。恐ろしい手段によって何かを変えるなんて、怖くてとんでもない話です。それでも私たちの思い込みによって映し出されている“世界観”を変えることは出来るような気がするんです。“世界観”です。私たちが認識している世界は、どんな“バイアス”を通して映し出されているんでしょうか。

今この場で、みなさん想像してみてほしいんです。この“失望”という“世界観”を変えて、社会を少しでも良くする具体的な改善策をです。私たちは忙しい日常を過ごしています。それは事実ですね。ですので半歩とも言いません。ほんの数センチ、今すぐ出来るであろう私たち大人の“世界観”を変える改善策です。“思い込み”を外したら、何が浮かびますか。多くの人が実現可能と思われる、具体的で、ほんの小さなアクションプランです。なんでも構いません。今からほんの数秒間。みんな違っていても良いと思っています。答え合わせをしてみたいんです。心に何が浮かびますか。

それでは答え合わせです。

そうです、バーベキューです。ほとんどの方が正解だったと思いますので嬉しく思います。毎回極論するようですが、バーベキューって無駄ですね。極論です。外でお食事をするって、日焼けもするでしょうし、暑いし寒いし、虫がお嫌いな方ならなおさら大変ですね。でも不思議なことにみんなしてその無駄な作業をする予約スペースを奪い合っているわけです。もちろんバーベキューでなくとも正解はなんでも良いんですけど、私たちには必要な無駄があるはずなんです。

例えば“ターミネーター”だったら無駄だったり非合理的なことはしないですね。やるにしても、一見無駄なことも時にはするようにと、あえてプログラミングされた場合に限るはず。

すみません、“ターミネーター”をご存じない方もいらっしゃるですね。“ターミネーター”というのは私の好きな映画に出てくるAIロボットです。それもレザージャケットにサングラスをつけた怖いAIロボットが追いかけてくるというパニックムービーなんですけれども、乱暴に言うそうですね。ファンの方すみません。

そんな“ターミネーター”がフリフリの割烹着とか着てバーベキューやってるのを私たち人類が見たら、さすがになんかちょっと厭じゃないでしょうか。別にフリフリは関係なかったかも知れないですけど。やっぱりオーバーヒートしないように、日光に当たらない室内でオイルとか塗るんですかね。だったら極めて合理的です。

お伝えしたかったことがあります。私たちが無駄なく効率的で完璧に委員の業務を達成出来たとして、それで心は満たされるんでしょうか。合理的で無機質な、そんな大人たちの表情を子供達が見て、この国の未来は“失望”じゃなくて活力とか希望に変わるんでしょうか。毎回個人的な感覚を多く伝えるようですみませんが、

～～～ 第1回実行委員会だより ～～～ (2/12) ～～～ 第1回実行委員会だより ～～～

私にはどうしてもうまくいく気がしないんです。私たちは“ターミネーター”ではないからです。効率は大切なことですが、それよりも大切な何かがあるように思えてならないんです。

私たちの第一のアクションプランは“世界観”を変えろということなんじゃないかという仮説をお伝えしたかったんです。この古い“世界観”を外せば、私たちは世界をほんの少しだけ変えることができるんじゃないかという仮説です。「忙しい」ってつぶやくのをいったん辞めてみる、怖い顔をいったん辞めてみる。そしてご自身が考える小さなアクションプランを実行するんです。それを子供たちに見てもらうと。

今日は時間の都合から、この仮説を提示するのみに留めたいと思います。正しいかどうかはわかりませんが、またみんなで一緒に考えていきたいと思っています。第一回ということで長くなってしまったようです。前例のないことかもしれませんが、次回もこの件の続きをお話ししたいと思っています。いったん私からは終わりにしたいと思います。みなさん、まずは一年間よろしくお願いいたします。

《大木校長先生》

本校PTA役員・実行委員の皆様、おはようございます。

本日は新体制で迎える第1回実行委員会でございます。ご多用の中、役員・実行委員をお引き受けいただきましたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

私からは、ご報告・お願いを3点させていただきます。

1つ目は、6月1日に予定されている運動会についてです。今、各学年が表現運動を中心に練習を頑張っています。今年度も運動会は午前中のみ、給食・弁当なしで12時20分頃には下校を予定しております。種目は、短距離走とダンス・民舞などの表現運動、そして、選抜リレーを実施することとさせていただきます。今年度も参観者の人数制限はせずに行いますので、たくさんの方が来校・参観されると思います。大変恐縮でございますが、受付や誘導、見回り等に関して、PTA役員・実行委員の皆様のご協力をお願い申し上げます。2つ目は、クロームブック等ICT機器の活用についてです。これまでも、学習時にクロームブックを文房具の一つとして活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図って参りました。今後は、話し合い活動やまとめの活動等多岐に渡って、更に活用していきます。昨日は、教員対象のデジタル教科書研修会を行いました。教員が学び、こどもたちに指導し、効果的にクロームブックを活用することができるようにしていきます。クロームブックを使っただけの家庭学習もあります。接続等でご配慮いただくこともあるかと思います。ご協力お願い申し上げます。

3つ目ですが、教育活動全般にかかわることです。4月学校便りや保護者会で、お伝えさせていただいておりますが、今年度は、「チャレンジ意欲を高め、成長と飛躍の姿が光る学校」を目指し、特に「思いやりのある子ども」の育成を重点教育目標としています。そのため、学習では特に対話的な学習に指導の重点をおきたいと思っております。また、かもめ隊やクラブ活動、委員会活動なども含め、日々の学校生活の中で、人とかわりながら、個々のこどもが成長・飛躍できる場をつくっていきたくて考えています。ご家庭でも是非、対話の時間を増やしていただきたいと思います。

私からの挨拶は以上になります。本日の実行委員会どうぞよろしくお願い申し上げます。

《檜本副校長先生》

副校長の檜本です。

いつもPTAのお仕事にご尽力くださり、ありがとうございます。

先日、広報ご担当様と広報紙について、保体文化ご担当様と運動会について、打ち合わせさせていただきました。「こどもたちのために」という皆様のお気持ちをひしひしと感じました。心からお礼申し上げます。

《 6月の行事予定 》

5/24（金）	5年生農業体験（田植え） 茨城県あすなろの里
6/1（土）	運動会
6/2（日）	運動会予備日①
6/3（月）	振替休日
6/4（火）	運動会予備日②
6/12（水）	開校記念日 PTAから「カモメの玉子」を児童へ配布
6/15～19（土～水）	学校公開

委 員 会 活 動 報 告

【 学 級 】

4/27	新旧合同実行委員会への出席、各委員と活動概要等に関する打合せ、学代選定（2、3、4）年のみ決定）	
5/11	新旧学級・本部イベント（かもめ）担当の打ち合わせ	
5/12	学級委員連絡用のオープンチャット作成	

【 広 報 】

4/23	前委員長より引き継ぎ	
4/27	新旧合同実行委員会への出席 顔合わせ	
5/1	広報担当先生ご挨拶 打ち合わせ日時の相談	
5/5	委員内連絡網登録依頼メール送信	

【 保体文化 】

4/6	前任者から引継ぎ	
4/22	副校長先生と運動会・開校記念対応に関する打合せ	
4/27	新旧合同実行委員会への出席、各委員と活動概要等に関する打合せ	
4/28	委員間の連絡網作成・各委員へ登録依頼	
5/2	開校記念品の発注	
5/4	委員会内での係分担に関する希望調査を実施、運動会レター案作成・本部へ確認依頼	
5/7	委員会内での係分担に関する希望調査の回答〆切	
5/8	係分担に関する個別調整	
5/9	係分担の決定・周知	

【 校 外 】

4/13	前委員長から引き継ぎ	
4/27	新旧合同実行委員会への出席、各委員と活動概要等に関する打合せ	

4/28	委員間の連絡網作成・各委員へ登録依頼	
4/30	新旧合同委員会欠席者への個別連絡	
【 卒 対 】		
	調整中	
【 本 部 】		
4/1	さくら連絡網新年度役員・委員アカウント整備	
4/4	新旧合同委員会開催案内通知文書検討	
4/5	さくら連絡網6年生アカウント削除	
4/8	新1年生さくら連絡網アカウント登録・登録手順書準備、さくら連絡網全学年進級処理・クラス振分	
4/13	さくら連絡網登録児童確認	
4/14	新1年生PTA委員選出アンケート準備、スポーツ部勧誘チラシ対応、さくら連絡網登録児童確認依頼	
4/15	新1年生PTA委員選出アンケートさくら連絡網配信	
4/16	卒対再々選出用フォーム作成・文書作成、新委員選出児童一覧作成	
4/17	卒対再々選出用フォームテスト、スポーツ部募集フォーム対応、転出児童さくら連絡網アカウント削除	
4/18	卒対再々選出の案内配布（さくら連絡網）	
4/19	新1年生委員選出アンケート結果集計、選出通知文書作成	
4/20	新1年生委員選出作業、委員名簿作成、さくら連絡網アカウント紐付け	
4/21	選出通知配信準備、選出完了通知配信準備（1年生向け）	
4/22	新1年生委員選出通知配信、選出完了通知配信（1年生向け）	
4/24	新旧合同実行委員会準備（出欠取りまとめ、流れ確認、投影資料準備他）	
4/25	新旧合同実行委員会準備（出欠取りまとめ、流れ確認、投影資料準備他）	
4/26	新旧合同実行委員会準備（出欠取りまとめ、流れ確認、投影資料準備他）	
4/27	新旧合同実行委員会開催、各委員長へ名簿共有作業、新本部役員・委員長さくら連絡網ログインパスワード配布	
4/28	卒対再々選出アンケート集計・選出作業	
4/29	R6年度オンライン名簿作成	
5/1	歓送迎会および餅つき大会開催無期延期のお知らせレター発送作業	
5/2	総会資料について打合せ、歓送迎会および餅つき大会開催無期延期のお知らせレター発送	
5/3	企画業務関係他打ち合わせ、卒対選出準備他	
5/7	歓送迎会および餅つき大会開催無期延期のお知らせ さくら連絡網配信	

1) オンライン名簿の公開について（本部 I T 担当）

P T A 学校側役員、本部役員、各委員の方の名簿を紙ではなく、オンライン名簿という形で共有をします。オンライン名簿はだれでも閲覧できるわけではなく、パスワード掛けて運用しております。また、今年度からは各委員の方にはオンライン名簿の U R L 自体はお知らせしておくものの、パスワードについては各委員長にのみ配布し、各委員所属の委員の方が名簿閲覧する必要がある場合には、委員長から個別にパスワードを聞いてもらう運用にしました。各委員長の方は、委員の方の作業に名簿の閲覧が必要かどうかご判断していただき、必要な場合のみパスワードの開示をお願いします。個人情報保護の観点から、この様な運用にさせていただきますのでご了承ください。委員長の皆様にはお手数お掛けしますがよろしくお願いします。

■使用上の注意点

個人情報となりますので、U R L 及びパスワードは口外しないでください。
本名簿に掲載されている個人情報については、P T A 活動のみの使用を厳守願います。
U R L、パスワードがわからない場合は、委員長へ問い合わせをお願いします。

■お願い

各委員にお知らせ等を送る場合はメールアドレスではなく、さくら連絡網の使用をご検討ください。
メールアドレスでご連絡する内容は、返信が必要な内容を含む業務連絡などのみを想定しております。

■共有方法

U R L とパスワードを同じところに掲載することは望ましくないため、
U R L はさくら連絡網にて送付、パスワードは各委員長にのみメールアドレスにて送付します。

2) 運動会について（保体文化委員）

■予備日①は 6 / 2 （日）、予備日②は 6 / 4 （火）（6 / 3 （月）は休校）

■昨年度同様、P T A は、本部役員と保体文化委員にて以下の対応を実施します。

<前日>

・事前準備

- －保体文化委員 6 名、P T A 本部役員にて対応
- －14：00 頃に集合し、受付用具の準備、記念品の仕分け、学校側の準備のお手伝い（テント設営等）を実施

<当日（運動会中）※詳細な役割分担は別途共有>

- ・受付対応（受付への誘導対応含む）
 - －保体文化委員 6 名にて対応（時間で入れ替え）
 - －8：00 頃に集合し、8：15 より受付開始予定
 - －来賓受付は学校側で対応いただく
- ・校庭見回り
 - －受付対応をしていない保体文化委員にて対応
- ・各学年の入れ替えの誘導
 - －P T A 本部役員にて対応

<当日（運動会后）>

- ・片付け
 - －長机やパイプ椅子を拭く雑巾を持参

■昨年度の保体文化委員会内での反省を踏まえ、運動会に関する学校からのお手紙に下記 2 点を記載していただきます。

- ・保護者の来校時間を遵守でお願いいたします。
- ・優先学年エリアへのベビーカーでの出入りをご遠慮ください。

また、併せて下記 2 点の記載もおねがいします。

- ・自転車での来校はご遠慮ください。
- ・当日は必ず受付を通過してからグラウンドに入るようお願いいたします。

3) 校庭開放について（校外指導委員）

■前提：

昨年度、秋以降月1回ペース全6回の開催を予定したが、3回目開催時に児童のケガがあり、後半3回が中止になった経緯がありました。運営方針について、再検討が必要な状況です。

■校外委員の希望概要：

- ・ 昨年の当初計画同様、熱中症が懸念される時期を避け、秋以降月1回ペースで全6回開催
- ・ 児童が参加しやすい水曜日の開催
- ・ 安全面を考えて、運営を従来の2名から4名に増員
- ・ 同じく、ルール徹底の観点も踏まえ、校外委員のみで運営対応

■大木校長先生、檜本副校長先生にご相談事項

上記校外委員の希望について、学校側のご意見を賜りたく、打合せのお時間いただきたく存じます。

※詳細日程など概要を6月7日までに江東区教育委員会に提出します。

4) 前会長の本校 PTA 顧問への推薦について（本部：会長）

■PTA 顧問及び相談役規定

下記の規定に該当する役員、会員が退会されたとき、越中島小学校の顧問及び相談役に推薦するものとする。

≪ 1 ≫ 顧問

(1) 会長を務められた方

本規約に基づき、富安前会長を相談役として推薦することを協議し、可決されました。よって、総会資料に追記致しました。

○ 「二分間の憎悪」※閲覧注意 福山 大地

『現在を支配する者は、過去を支配する。』

『過去を支配する者は、未来を支配する。』

その物語は主人公の中年男性が“日記”を書いているところから始まります。紙にペンを走らせる手と心は震えています。この世界で“日記”を書くことは固く禁じられているためです。

独裁体制のこの国では街のあちこちに監視カメラ機能付きの指導者のポスターが貼られ、職場の作業環境のみならず自宅に居ても壁掛けのスクリーンから私生活を常に監視されています。この指導者が実在する人物なのかは誰も知りません。主人公が暮らす国を支配・監視する独裁政党には3つのスローガンがあり、街の至る所に掲げられています。

『無知は力なり』

『戦争は平和なり』

『自由とは隷従なり』

国内では「二重思考」と呼ばれる考え方が広く行き渡っており、例えば、「白は黒である」「黒は白である」という矛盾した認識を同時に受け入れるよう奨励されていますがその理由は誰にも分からず、この党のスローガンの意味に疑問を持ったとしてもそれを誰かに話すことは許されません。

近未来と思しきその世界は全て独裁体制の超大国三つに分かれて互いに対立し、常に戦争状態にあります。戦時であることから人員や材の消耗が激しく、日々の生活は多忙で物事をじっくり考えたり何かを思い出したりする時間はほとんどありません。

住人の階層は極少数の上層(党内局)、やや少ないと思われる中間層(党外郭)、そして大多数を占める下層(プロレ)の三つに分類され、居住する地域も隔てられた格差社会です。

体制側である上層と中間層が従事する事業体は行政庁のような組織に分類・編成されています。すなわち、報道や教育を司る「真理省」、軍事を司る「平和省」、経済を司る「豊富省」。そして最も警備が厳重な「愛情省」は規律や思想の取り締まりを司り、窓もないその建物は人々から恐れられています。

主人公の男は「真理省」のある部門で“歴史・記録の改竄”を担当しています。ある日突然オフィスの画面から指示が下り、交戦状態にあったはずの国とは即座に同盟を結び、もう一つの超大国との戦争に突入した旨のニュースが告げられます。そしてその部門の職員たちは一心不乱に過去の歴史を葬り去っていきます。改竄業務は言葉を発することによる自動音声入力システムで行われ、紙やペンなどを使用することなどほとんどありません。

メモが一切残されず、そもそも記録が全て改竄され初めから無かったことにされるため、数年前くらいまでは別の国と戦争状態にあったことを人々はだんだん思い出せなくなっていきます。ある日突然同僚が“削除”されても気のせいだと思うようにさえなっています。

人々の暮らしは常に貧しく多忙で、当然その不満は鬱積していきます。中間層という“普通より上”の生活が出来ているはずの主人公の男もこの徹底した全体主義に疑問を持つものの、誰にも言えない悩みを募らせ、その不満と孤独感は頂点に達しようとしていました。そんな中、今日も“その時間”がやってきます。

決められた時間に省内の党員が一堂に会し、この独裁国家に反旗を翻した反政府組織のリーダー(元党の幹部)が巨大なスクリーンに映し出されます。その実在するかどうかとも分からない人物が演説している映像に向かって“二分間”だけその場の全員で怒声と罵詈雑言を浴びせかけるといふものです。

金切り声をあげる党の大衆に紛れてぼんやりと考え事をしながら過ごす主人公は、そこで気になる二人の人物を見つけました。

一人はスクリーンに映された敵に対して、誰よりも大声で罵倒していた若い女性。そしてもう一人は主人公に意味深な視線を向けていた上層(党幹部)の紳士でした。主人公の男は後にこの二人と接触することになります。このことが男の平穏な日常を狂わせ、破滅に向かうことになるかも知れずに一。

新年度では本稿が初めてとはなりますが、私がこの場をお借りして発信を始めてから複数回を数えています。その趣旨は、

～～～ 第1回実行委員会だより ～～～ (8/12) ～～～ 第1回実行委員会だより ～～～

一見近寄りがたい印象を持つPTAというチームの近況などを定期的に配信し会員の方に実情をお伝えすることで、その存在を身近に感じていただくというものでした。それでも本校に入学されたばかりの方や、初めてこのたよりをご覧になった保護者の方は少し面食らったかもしれません。

私は前年度からこのお役目をいただき、“とある動機付け”により一年間だけはどんなことがあっても子供達のために今のお役目を全うするという目標を持って活動を始めました。

しかし私自身手探りで走り続ける中、初めこそ一年間孤独な闘いが始まるのだと焦ってばかりいたところ、実態は大きく異なっていました。それは、次第に闘っているのは自分独りなどではないということに気づき始めたからです。偶然にも一緒にした委員の方たちが持ち前の力を発揮し始め、何よりも楽しそうに、能動的に業務を行ってくださるようになっていました。

本校を含む地域社会に直接関わってみて驚いたことは、この近辺にお住まいの保護者の方々は大変優秀な方が多いという印象を受けたことです。もちろん私が誰かの能力を判断する立場になど無いのですが、委員を引き受けてくださった方は尚更その印象が強く見受けられました。そしてこの度、このお役目を続けさせていただくこととなったため、新年度、といっても正確には5月からになりますが、新入生保護者の方や新たに委員を引き受けてくださった方、あるいは初めてこのたよりを読んでいただいた方に向けて改めてご挨拶をしたいと思います。

今回は第一回の配信ということで、今まですっかり忘れていて触れてこなかった自己紹介文のようなものを書いてみようと思います。というのも、今までこのたよりを読んでいただいた方から、なんだか書いている者の人物像がさっぱり見えてこないという感想をいくつかいただいたからです。書いている者がどんな人間か知ることが重要なことなのか、という言葉を私は何度か飲み込みました。

今さら自己紹介といってもいったい何を書けばよいのか、何も出てこない自分に驚いています。好きなスポーツや趣味とか、そんなことをお伝えしたところで何がどうなるのかと自分の中で堂々巡りしてしまいます。ほどほどに何かを見聞きすることを好み、体を動かしたり競技を楽しんだりすることはありますが、どの分野でも突出した知識はありませんし、運動だってちゃんとやっている人には勝てません。スポーツ観戦をしても特定のチームを応援することは決してなく、真剣な面持ちで応援を楽しんでいる人の前ではぼんやりと別のことを考えています。本当のところ、いったい何を自己紹介すればよいのでしょうか。

ある日省内の廊下で“その女性”はわざとらしく倒れた瞬間、手を貸した主人公の手のひらに素早く小さな手紙を握らせました。初めは自分をターゲットとして監視している敵だと思い警戒していたその女性は、主人公と同じく現行の監視社会に疑問を持つ同志だったとわかりました。

その女性とは少しずつ心を通わせるようになり、つかの間の安心を手に入れるため、男は頻繁に下層地区に赴くようになります。驚くべきことに、その地区には監視スクリーンがないことに気がついたからです。そして“日記”を書くための紙とペンを購入した古道具屋の二階を借りて監視と支配から逃れた主人公は、そこで過去の記憶を思い出したり物事をじっくり思案するなど、人生で初めて芳醇な時間を手にし人間性の大切さを再確認していきます。

生きる勇気を取り戻した男は、自身が疑問に感じているこの監視国家と世界の真相になんとしても辿り着きたいと渴望し続けます。そんな中、以前から彼が暮らす監視社会には“とある本”の存在が噂されていました。それは反体制組織のリーダーが記したとされるもので、現行の支配構造の実情を暴露したものだと言います。

自己紹介になるかわかりませんが、自覚している性格や普段考えていることくらいならすらすら書けます。私はいわゆる“ビビリ”で、とても怖がりです。心を他人どうして比較することは出来ませんが、きっとこの地域でも指折りの臆病者です。何をするにもためらいます。いがぐり頭の少年だったあの頃から、この性格のせいで自身を呪ったことは数万回では済みません。もっと素早く決断したり、積極的に生きて果敢に挑戦出来る人物像にずっと憧れ続けてきましたが、どうやらそれも叶いません。世間から求められるまま挑戦的なフリをしています、それも全て作り物です。

それに加えて、感情を表に出すことがどうやらとても苦手です。おそらく周囲や地域に見せている表情は固く、いつも不安に怯えながら世界を眺めています。ここ10年くらい、腹の底から笑った記憶は一度もありません。どんな外界の刺激にも、だんだん感情が反応しなくなってきているのを実感しています。

そんな指折りの臆病者でも、激しい怒りの感情を隠しきれなくなる瞬間が少しだけあります。それは“陰湿な言論封殺”を目の当たりにしたときです。

例えば。とても異論を提示できないような同調圧力を作り出し、数の暴力で人を追い込み、多数派と同じように行動せざるを得ない状況を作り出すことなどです。

他にも思い出しました。例えばカラフルなロゴにキャッチーで理想的な言葉を用い、子供にまでその考えを浸透させ、善と悪以外はこの世に存在しないかのような二元論でロジックを暗に構築し、そこに隠された悪意を知らない人々を善なる動機付けから行動させ、この考えに従わないものにはおぞましいレッテル貼りをするなどして排除し密かに利益を貪っている者達を見たとき—。

“その時間”に主人公が見かけたもう一人の気になる人物、すなわち“上層の紳士”と廊下ですれ違ったときに突然声をかけられ自宅に来よう誘われます。彼も反政府勢力の一員だと確信した主人公は誘われるまま自宅に赴き、その紳士を通してついに“その本”を手にしめます。主人公はそれを貪るように読み進める中、恐ろしい真実を理解することになります。

『人類には有史以来、三つの階級しか存在しない。すなわち、上層、中間層、下層である。上層は常に現状維持を望み、中間層は常に上層との入れ替わりを望む。そして下層は階層のない平等な社会を望む。そして中間層は下層と手を組み、いつの時代も上層を打倒してきた。しかしそれで話は終わらなかった。その後さらに三つの階層が再構築され、ひたすらそれを繰り返してきたのが人類の歴史である。これを恐れた世界中の上層たちは知恵を絞って結託し、自分たちが現状を維持し続けることが出来る完璧なシステムを構築した。それはすなわち“中間層”の徹底した監視と教化である。』

『国内経済が豊かになった場合、富は必ず再分配されてしまう。そうすると“中間層”の中で力を持つものが現れ、下層と結託して上層を打倒することになるだろう。そこで常に戦時である状況を作り出し徹底的に材と人員を消耗させ、富を分配しなければ“中間層”が力を持つことはなくなるし、多忙と困窮により自分で学び考える余力を与えないようにすることが出来る。』

『また、国内外に共通の敵を作り出し、それらに向けて敵愾心を煽れば、上層や日々の生活に対する不満から目をそらせることが出来る。しかも戦時や混乱期に人は権力者に命をゆだね統制されやすい。三つの超大国の上層は自分たちだけの平和のために手を組み、作り物の戦争を継続する。』

『さらには「二重思考」の推奨により、人々は権力者の言うことが頻繁に変わったり矛盾した発言をしても容易に受け入れてしまう。それはつまり、認識されていると同時に認識されていない。』

この物語で恐ろしいのは、現代の国家でもほとんど同様の支配システムを構築出来てしまう可能性を示唆している点だと思いました。むしろ以前よりもその恐ろしさは増してきているかもしれないと感じます。もちろん我が国がこんなディストピアであるはずはありませんが。

ところで私はさきほど出てきた“中間層”という人々に強い関心を持ちました。現代の我が国で同じような階層の人々がいるとしたら、具体的にいったいどんな暮らしをしているのでしょうか。

これは私の勝手な想像です。その多くはきっと都心へのアクセスが良い立地にお住まいで、いわゆる“普通より上”のマンションを購入しているはずで。自身や家族は“普通より上”の学校に入り、“普通より上”の組織体に所属・業務に従事し、もちろん収入も“普通より上”です。一様に優秀で、仕事や作業効率などでは“普通より上”の結果を残すに違いありません。

しかしながら、それら項目のどれをとっても一部の上層には及びません。心のどこかでそのことを気にかけたり、下層に対する優越感は隠しつつも上層への強い憧れは隠し切れません。次の世代でこそ上層に食い込もうと、家庭内では児童の教育に狂信的なまでの熱意とコストを投下し続けていることでしょう。

その影響からか猜疑心が強く、常に近隣の他人やインフルエンサーなどと自身を比較し焦燥感に駆られていることから、

日々心がすり減り幸福感を感じる瞬間は意外に少ないかもしれません。

もしこの物語の為政者たちが現代の住人たちを監視・支配するとしたら、どのようにそれを実行に移すでしょうか。ターゲットはやはり“中間層”になるような気がします。

私の想像ではまず“中間層”の持つ隠れた劣等感を優しく包み込んで心をつかみ、毎日敵愾心を煽るようなニュースやスポーツ・ドラマや娯楽など刺激的なコンテンツと過酷な労働を与えて判断力を麻痺させ、為政者の言うことがころころ変わったりとんでもない政策を実行しようとも、「二重思考」にも似た圧倒的な情報量や有名人のスキャンダルなどを報道させうやむやにし、強い反発は起きないようにすることでしょう。あとは“中間層”が持つ優越感につけこみ“人生最大の買い物”などで材を消費させてしまえば、支配はほとんど完成したようなものです。それは同時に“上層よりも優秀”な納税者であることをも意味するのだとしたら。全ては私の勝手な想像の延長です。

あの時子供だった私たち大人の多くは、どうして本当にやりたかったことを次第に諦めて、いつの間にか良いとされる学校や会社へ行くように駆り立てられ、そのほとんどがサラリーマンになり、上司や会社の指示に従順に従い、強い不満があっても会社や組織のために自分を殺す“きちんとした大人”になったのでしょうか。

私たちは居酒屋などで社会や組織に対して不満を吐き出したりはしますが、実際に実力行動を起こすなどの強い反発をすることはほとんどないはず。もちろん私も怖くてそんなことは出来ません。

ではその小さな個人の集合体であるこの地域の実情はどうでしょう。私たち大人は、毎日輝いて生き生きと未来の希望を子供たちに語っているのでしょうか。本稿で詳述することはしませんが、私にはこの国の社会が大きな閉塞感に包まれているように思えてなりません。それも数十年の長きにわたってです。

そんな閉塞感に包まれた私たち大人の表情を見た子供たちはどんな未来を描くのでしょうか。

私が常にぼんやりと考えていること、それは私たち大人が作り出す社会意識の中に蔓延しているのは自身への“無価値感”ではないかということです。例えば私たちは過去というものをどのように認識しているのでしょうか。あるいは私たちが何者であるか、自己や祖先をどのように認識するかによって、我々が自身や社会を見るレンズはそのピントを変え、描く未来は大きく変容してしまうかも知れません。私の突拍子もない空想に過ぎないかもしれませんが、この社会にはある“システム”のようなものが組み込まれていて、子供から大人に成長する段階でそのベルトコンベアーに乗せられ、少しずつ、次第に“無価値感”が醸成されていく。この恐ろしい空想が正しいとするならば、それは“栽培”とさえ言えるかも知れません。

そしてこの“システム”が始まる一丁目一番地があるとしたら、それはいったいどんなところなのでしょう。視覚では捉えている(perception)にもかかわらず、あまりにも身近にあり過ぎてそれと認識(recognize)できないようなところなのかも知れません。もっとも、その“栽培システム”の最前線で教化の実行に当たる人々がいるとすれば例外なく真面目で勤勉であり、なんらの悪意などあろうはずも無く、彼らの中にも同様に育まれた小さな劣等感と優越感をそれとは気づかず巧みに利用され—。

破滅の時は突然やってきました。古道具屋の二階の部屋は初めから監視されていたのです。あっけなく彼らは捕えられ連行されてしまいます。

主人公の男はどこかの建物の待合室の中にいました。どこにも窓が無いことから、きっと「愛情省」の中なのでしょう。これから激しい拷問が始まるのだと主人公は覚悟しました。その時驚いたことに、待合室に入ってきたのは反政府勢力の一員だと思い込んでいた“上層の紳士”で、主人公に対する教化を担当するのもこの男だったのです。

この後、主人公は筆舌に尽くし難い責苦を受けることになります。それでもなかなか党に服従しようとはしません。

『精神の中以外に物質や現実など存在しない。星ですらも無視すれば無いのと同じだ。』

ボロボロになっても、これら党の言う概念を受け入れることが出来なかったからです。

何度も何度も責苦を受け続けた主人公は、洗いざらい全てを吐き出します。体制側の考えを受け入れ、教化にあたる紳士のみでなく自分自身すらも騙し切ったつもりでしたが、心の奥底ではまだ何かを手放していませんでした。あることからそのことが露呈し、彼は「愛情省」の中でも最も恐ろしいと噂される“最後の特別室”に連れて行かれてしまいます。

～～～ 第1回実行委員会だより ～～～ (11/12) ～～～ 第1回実行委員会だより ～～～

この物語の結末は記載ませんが、この一連の残虐行為の真の目的は、主人公の生命を奪うことなどではありませんでした。

この“日記”がどれくらいの人に届いているのかはわかりません。残念な予測ですが、いつかこの文章は“削除”されることでしょう。

初めての自己紹介ということで、私が以前読んでずっと気になっていた物語を軸にして私の自覚している性格や普段考えていることを書いてみましたが、何か伝わったものはありましたでしょうか。あなたはどんなレンズでどんな世界を眺めていますか。ご自身のレンズについて掘り下げてみることで、何か新しい発見があるかもしれません。機会があればあなたの持つ世界観についてお話を伺うことが出来たら大変嬉しく思います。それに今回は私も初めて自分のことを書いてみてわかったことがあります。どうやら私は少し“面倒くさい臆病者”のようです。それでもあと一年間だけ、もしよろしければみなさんと一緒に走り続けたいと思います。この“日記”があなたの心に届けば幸いです。

主人公の男は禁止されているはずの“日記”にいつしか書き留めていたことがありました。

『正しいと思うことを正しいと言える自由。体制側が $2 + 2 = 5$ と言っても真実は守られなければならない。自由とは、 $2 + 2 = 4$ であると言える自由である。』

次回の実行委員会は、6月8日（土）10：00より開催予定です。